資料１

本日御議論いただきたい論点

2018年9月12日
資源エネルギー庁

エネルギー基本計画を踏まえた論点の全体像

- 本日は、コストダウンの加速化とFITからの自立化のうち、
  ① **コストダウンの加速化について（目指すべきコスト動向と入札制）**
  ② **住宅用太陽光発電設備のFIT買取期間終了に向けた対応**
  について御議論いただきたい。

		日本の課題	中間整理		今後の論点
再生可能エネルギーの主力電源化	発電コスト	• 欧州の２倍 • これまで国民負担２兆円/年で再エネ比率＋５％（10%→15%） →今後＋１兆円/年で＋９％（15%→24%）が必要	国際水準を目指した徹底的なコストダウン	入札制・中長期目標による価格低減 ゲームチェンジャーとなりうる技術開発 自立化を促す支援制度の在り方検討	コストダウンの加速化とFITからの自立化 本日御議論いただきたい論点
	事業環境	• 長期安定発電を支える環境が未成熟 • 洋上風力等の立地制約	規制のリバランス 長期安定電源化	新たな再エネ活用モデル／再投資支援 適正な事業実施／地域との共生 洋上風力のための海域利用ルールの整備	長期安定的な事業運営の確保
再エネの大量導入を支える次世代電力ネットワークの構築	系統制約	• 既存系統と再エネ立地ポテンシャルの不一致 • 系統需要の構造的減少 ⇩ • 従来の系統運用の下で、増強に要する時間と費用が増大 • 次世代NW投資が滞るおそれ	「新・系統利用ルール」の創設 ～ルールに基づく系統の開放へ～	既存系統の「すき間」の更なる活用（日本版コネクト&マネージ） 再エネ大量導入時代におけるNWコスト改革 徹底した情報公開・開示 紛争処理システムの構築	アクションプランの着実な実行
	調整力	• 変動再エネの導入拡大 ⇩ • 当面は火力で調整 • 将来は蓄電の導入によりカーボン・フリー化	広域的・柔軟な調整 発・送・小の役割分担 調整力のカーボン・フリー化	火力の柔軟性／再エネ自身の調整機能確保 市場機能／連系線／新たな調整機能の活用 競争力ある蓄電池開発・水素の活用	⇕ 産業競争力と技術革新の追求